

県内経済動向調査結果(平成21年9月分)

平成21年11月16日
産業経済政策課

概況

県内経済は、総じて厳しい状況が続いているものの、引き続き製造業で持ち直しの動きが見られる。

主な業種	状況
製造業	減産となっているが、引き続き持ち直しの動きが見られる 生産額、受注額はそれぞれ前年同月比13.6%減、同15.1%減となった。 3か月先の業況見通しDIは▲1.2から▲8.5となった。
建設業	公共工事が増加しているが、先行きは不透明なものとなっている 受注額、完工高はそれぞれ前年同月比125.4%増、同10.9%減となつた。3か月先の業況見通しDIは▲31.3と変わらない。
小売業	引き続き弱い動きとなっている 売上高は前年同月比2.0%減、3カ月先の業況見通しDIは▲50.0から▲27.6となった。
サービス業	弱めの動きとなっている 売上高は前年同月比2.5%減、3カ月先の業況見通しDIは▲19.2から▲34.6となった。

製造業の動向

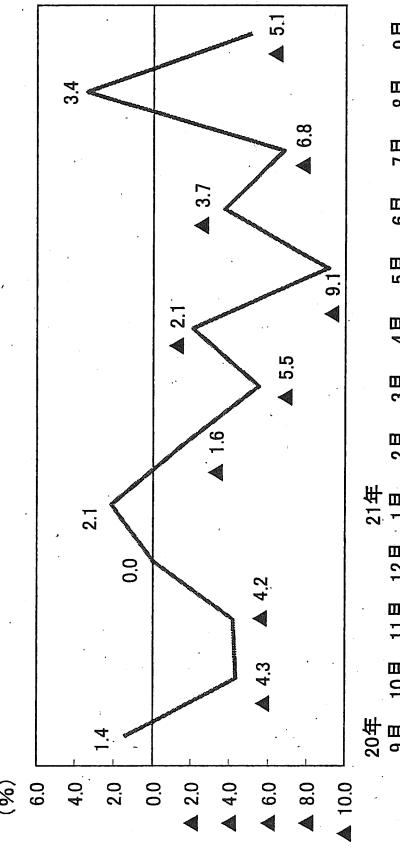
1 食料品

弱含みとなつてゐる

生産額は前年同月比5.1%減。3か月先の業況見通しDIは0.0と変わらない。

酒類では、イベントでの観光客の需要などにより前年同月比増となつてゐる企業も見受けられるものの、今後の年末にかけてのお歳暮商戦については、百貨店全体の売上高が落ち込んでいることから、売上の減少が懸念される。加工食品においては、消費マインドの低下により前年同月比減となつている。

食料品生産額前年同月比 (%)



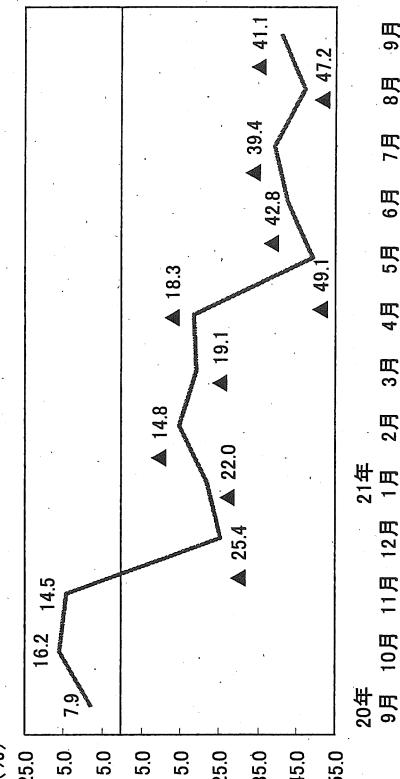
2 繊維・衣服

低調な生産活動が続く

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比41.1%減、同13.0%減。3か月先の業況見通しDIは▲16.7から▲20.0となつた。

前年同月比4割以上減の低調な生産活動となつては、百貨店での店頭価格の下落、小ロット・他品種の受注などにより利益確保に苦慮している状況となつてゐる。

繊維・衣服生産額前年同月比 (%)



3 木材・木製品

2カ月連続マイナス、厳しい状況が続く

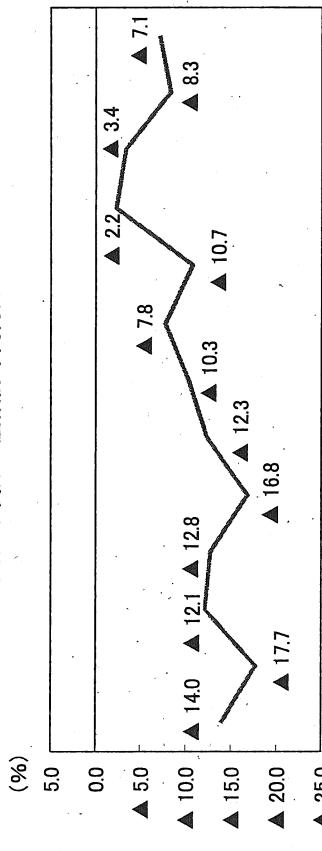
生産額、受注額はそれぞれ前年同月比7.1%減、同9.9%減。3か月先の業況見通しDIは0.0から▲8.3となった。
県内を含め全国的に住宅市況が落ち込んでおり、調査対象となっている多くの企業で前年同月比減となっている。販売単価が原価を下回る状況も見受けられ、厳しい状況が続いている。

4 鉄鋼・金属製品

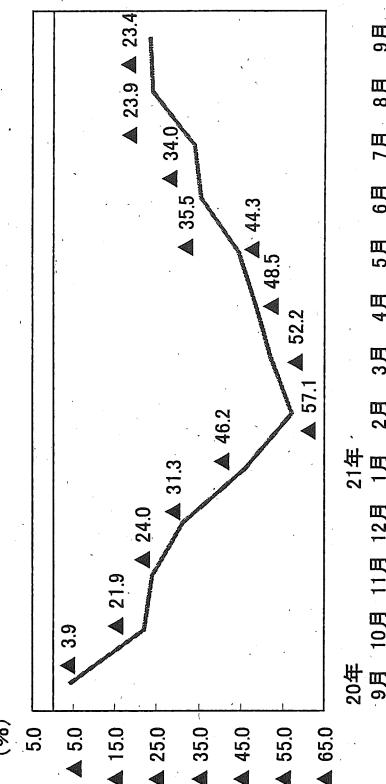
減産が続く

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比23.4%減、同24.9%減。3か月先の業況見通しDIは27.3から▲9.1となった。
緩やかな回復を続けているものの、勤務日における時短休業や休業日を設けて減産に対応している企業もあるなど、回復のスピードが鈍化している状況が見受けられ、減産が続いている。

木材・木製品生産額前年同月比 (%)



鉄鋼・金属生産額前年同月比 (%)



5 一般機械

弱めの動き

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比9.0%減、同7.9%減。3か月先の業況見通しDIは▲42.9と変わらない。

公共工事関連では堅調なものとになっているものの、政権交代によるダム工事見直しの影響が今後懸念される。プラント関連では底堅く、一般産業機械では低迷している傾向は続いている企業も見受けられる。

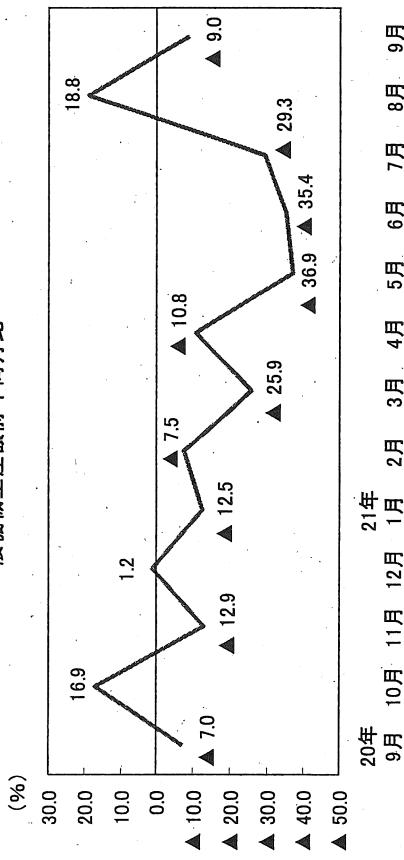
6 電気機械

一部生産が持ち直しつつあり、減産が緩和している

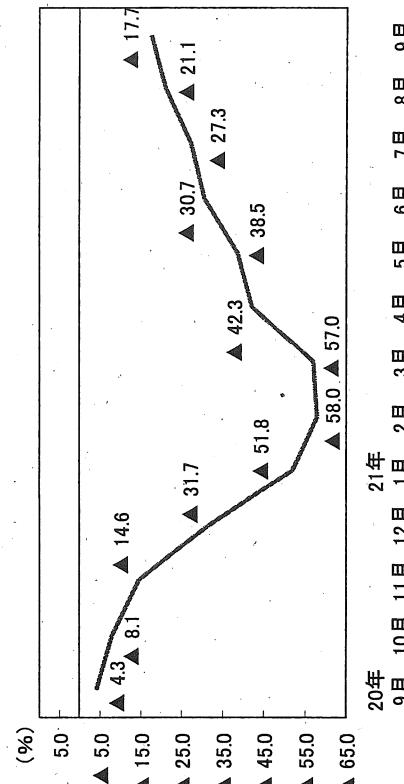
生産額、受注額は、それぞれ前年同月比17.7%減、同18.8%減。3か月先の業況見通しDIは0.0から▲21.1となった。

コンデンサーでは、減産の緩和傾向が続いているものの、為替レートを1ドル90円前半の設定で生産計画を立てる企業が多く、昨今の円高傾向が企業収益に影響を及ぼすことが懸念される。半導体関連では中国向けパソコン製品の伸びなどから、フル稼働による生産が行われている企業が見受けられるなどにより前年同月比でプラスとなっている。

一般機械生産額前年同月比 (%)



電気機械生産額前年同月比 (%)



7 輸送機械

弱めの動き

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比9.7%減、同12.5%減。3か月先の業況見通しDIは0.0と変わらない。

3割以上の減産生産が続き操業停止日を設けている企業も一部あるものの、多くの企業では回復基調にあり、生産額の前年同月比がプラスに転じ、生産量の増加に対応するため、残業や土日出勤、派遣社員の増員が行われている企業も見受けられる。

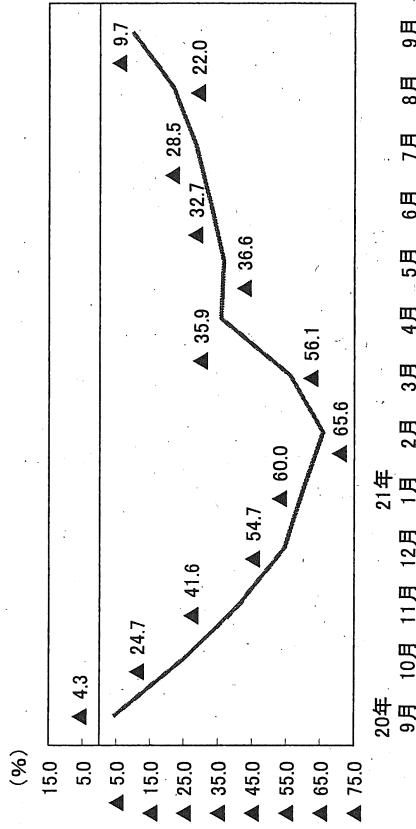
8 精密機械

弱含みどなつていいる

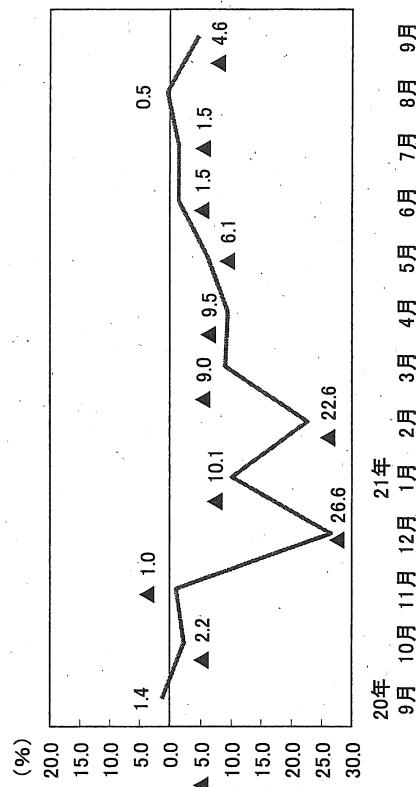
生産額、受注額はそれぞれ前年同月比4.6%減、同4.6%減。3か月先の業況見通しDIは0.0から37.5どなつた。

医療機器関連で前年比増の堅調な動きが続いているが、海外輸出分も多いことから、円高が長引くことによるマイナスの影響が懸念される。光ファイバー関連においては、北米及び中国向けの伸びにより、前年同月比プラスどなつていいる。計量関連では、在庫が増加し休業日を設け生産調整を行っている企業が見受けられる。

輸送機械生産額前年同月比 (%)



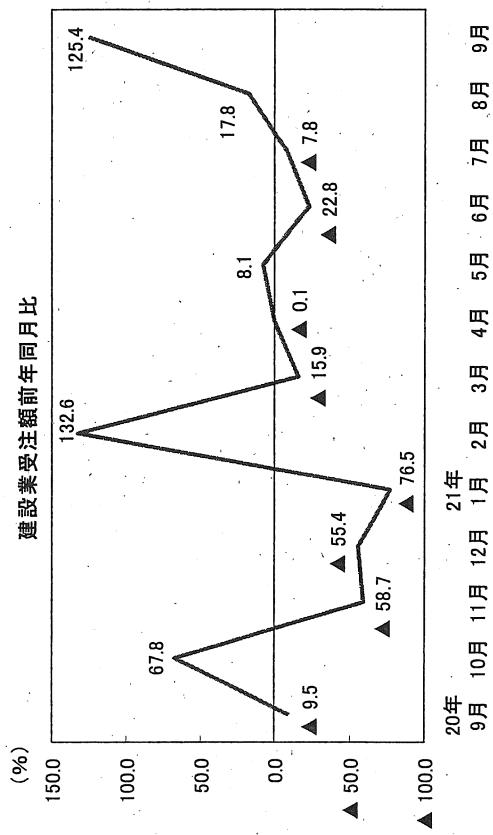
精密機械生産額前年同月比 (%)



建設業の動向

建設業

公共工事が増加しているが、先行きは不透明なものとなっている。
受注額、完工高はそれぞれ前年同月比125.4%増、同10.9%減。3か月先の
業況見通しDIは▲31.3と変わらない。
経済対策として、公共工事の発注件数、請負金額の増加が続き、調査対
象となる企業の多くで受注額が前年同月比でプラスとなっているもの
の、政権交代による、今後の公共事業削減に伴う景況の悪化が懸念され
る。



小売業の動向

1 衣料品

低調な売上となつている

売上高は前年同月比1.8%減。3か月先の業況見通しDIは▲60.0から▲33.3となつた。

昨今の厳しい経済情勢により従業員の制服や作業着について取引が減少した企業があるほか、秋物の動きも鈍いことなどにより、売上が伸びず、総じて低調な売上となつている。

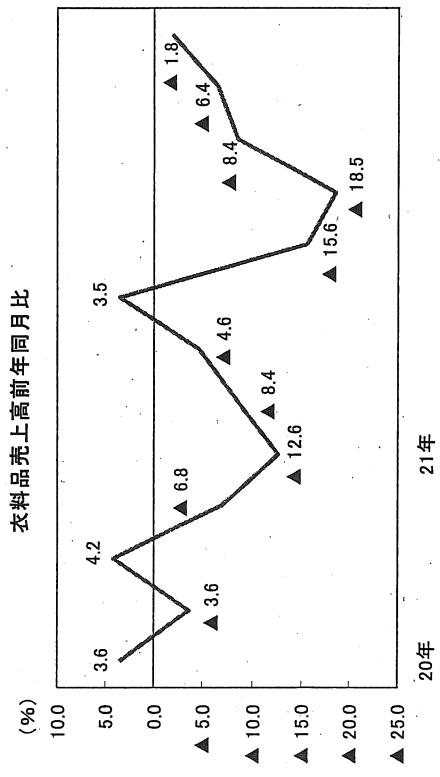
2 身回品

売上の落ち込みが続く

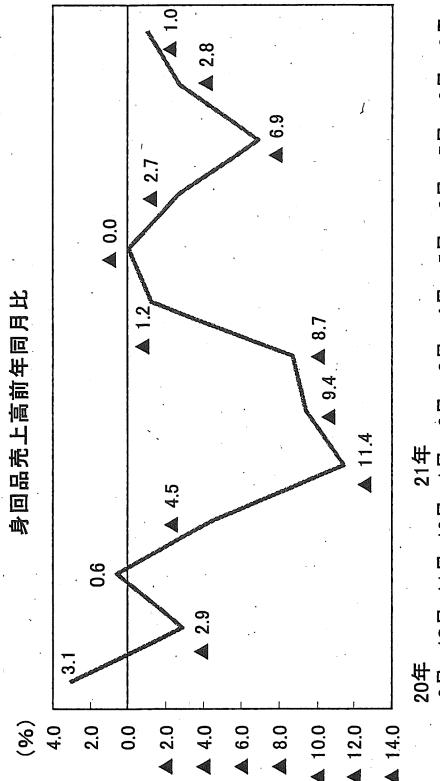
売上高は前年同月比1.0%減。3か月先の業況見通しDIは▲83.3と変わらない。

一部企業のセールやスポット的な大口の発注があつたことにより、売上高の前年同月比のマイナスが縮小した。ホームセンターでは価格競争が激しく利益率が落ち込んでいるほか、客単価が減少している状況が見受けられる。

衣料品売上高前年同月比



身回品売上高前年同月比

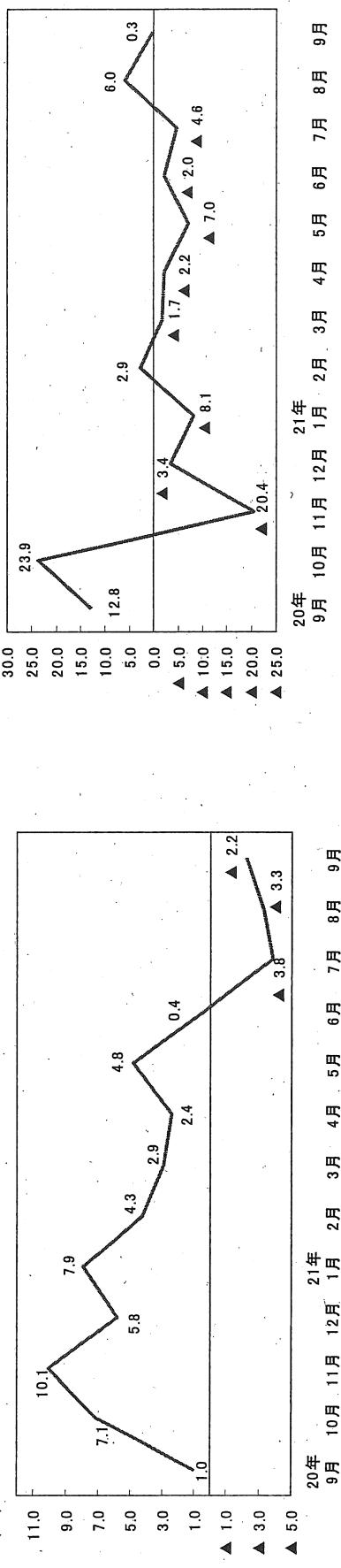


3 飲食料品**弱めの動きとなつている**

売上高は前年同月比2.2%減。3か月先の業況見通しDIは▲58.3から▲25.0となつた。

スーパーにおいて、必要最小限のものしか購入しない、少しでも安い商品を購入するなどの消費者の節約志向により、売上が減少した。コンビニにおいては、タスプ導入による增收効果が一巡したほか、客数が前年比減となつており売上が落ち込んでいる。

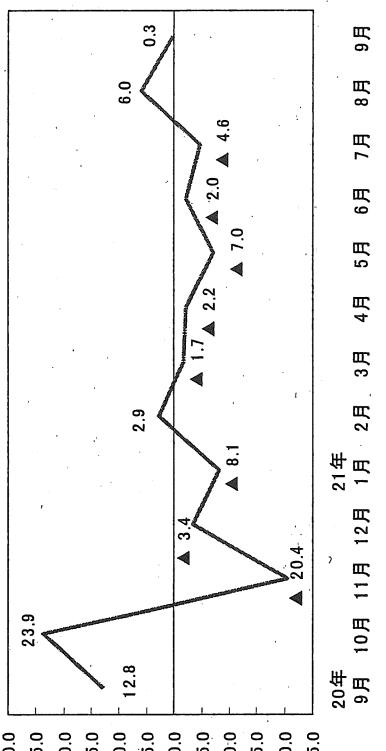
飲食料品 売上高前年同月比 (%)

**4 家電品****薄型テレビ、冷蔵庫が堅調**

売上高は前年同月比0.3%増。3か月先の業況見通しDIは20.0から40.0となつた。

エコポイントの効果もあり、薄型テレビ、冷蔵庫の販売が好調である一方で、エアコンにおいては顕著な効果は表れておらず、総じて前年同月並みの売上高となつた。

家電品 売上高前年同月比 (%)



サービス業の動向

1 旅館・ホテル

宿泊部門が好調

売上高は前年同月比1.9%増。3か月先の業況見通しDIは▲28.6と変わらない。

宿泊部門において、シルバーウィークの効果により観光客が増加し好調であり、全体として売上高の前年同月比がプラスとなる要因となった。婚礼部門については、横ばい若しくは前年を上回る企業が多く、宴会部門では企業により好不調が分かれるものとなった。

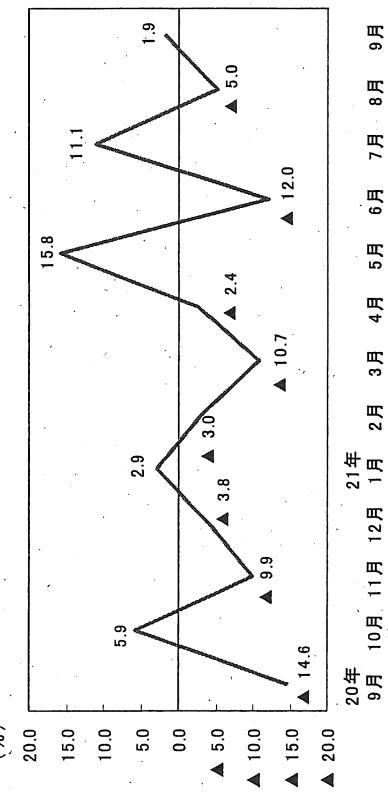
2 その他サービス

弱めの動きどなつている

売上高は前年同月比4.8%減。3か月先の業況見通しDIは▲16.7から▲41.7どなつた。

道の駅において、シルバーウィーク、高速ETC割引、大規模イベントの開催などにより観光客が増加し好調であった。運輸業においては、燃料価格が上昇傾向にあり、利益の確保に苦慮している企業も見受けられ、今後の不安要因どなつている。

旅館・ホテル売上高前年同月比



その他サービス業売上高前年同月比

